

## 報 告

## 障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会 2015」(東京開催)

横浜市総合リハビリテーションセンター 研究開発課 桑田 哲人

## 1. はじめに

障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会 2015」は、公益財団法人テクノエイド協会主催で、2016年2月12日(金)にTOC有明コンベンションホールで開催された。同交流会は2015年11月28日(土)に大阪南港ATCホールでも開催されている。筆者は東京開場に参加したので、その様子を感想とともに報告する。

## 2. 交流会の目的

交流会の目的は副題「作る人と使う人の交流会」に端的に示されている。テクノエイド協会のホームページ<sup>1)</sup>にあるように、「障害当事者のニーズをより的確に捉えた支援機器開発の機会を創出すべく(中略)、開発や改良等を行う機器の展示を行うとともに、障害当事者と企業・研究者、政府系の研究開発支援機関等が一堂に会し、体験や交流を通じて、良質な支援機器の開発、この分野への新規参入の促進」を図ることにある。

## 3. 特長

会場では当事者のニーズを細やかに汲み上げ、開発者との交流が促進されるよう工夫されていた。

当事者団体としては日本身体障害者団体連合会、全国脊髄損傷者連合会、日本ALS協会、全国盲ろう者協会、自閉症サポートセンターなど9団体が出展していた。開発側として国立障害者リハビリテーションセンター研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)等の研究機関等と、50以上の開発企業が出展した。「厚生労働省平成27年度障害者自立支援機器等開発促進事業 採択開発テーマ」に採択された7企業も出展した。

会場内では「障害者自立支援機器に関するニーズ集～2016.02.12～ver.2.0」が参加者に配布された。当該冊子は交流会に先立ち、障害当事者団体の協力のもと、自立や社会参加に当たっての課題、解決方策やニーズを端的にまとめたものである。さらに参加者間の意見交流を図る「障害者自立支援機器に関する連絡シート」が配布され、当事者、開発者双方の意見を記せるようになっていた。

## 4. 会場の様子

筆者は開場早々に到着したが、既に受付には列ができており、会場内も当事者の方などで盛況であった。

海外製の握力補助器、車載用磁気ループをはじめとする聴覚障害者・難聴者向けの種々の機器、LED付で視認性を向上させた盲人安全つえなど視覚障害者向けの用具など、初めて見るものも多くあり大変興味深かった。特に知的障害児(者)及び肢体不自由児(者)向けのスモックは、当事者の母親が様々な工夫をして開発されており、大変素晴らしいものだと感じた。

## 5. まとめ

当事者が使いやすい福祉用具を作製するには、開発者が開発当初から当事者の意見や生活上の課題をしっかりと捉えることが重要であることは言われて久しい。しかしその方策や取り組みが一部企業などにおける限定的なものであったり、開発者が当事者との接点を見つけるのが難しいことなどが課題であった。今回の交流会はそれを打破しようとする具体的な取組の一つであり、公の機関が開催することで全国的な広がりを持つことができる点で非常に有意義だと思われる。この取り組みが今後も持続され、大きな実を結ぶことを期待したい。

## 【参考資料】

- 1) 公益財団法人テクノエイド協会(2016年5月24日現在)  
<http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/>

横浜市総合リハビリテーションセンター 研究開発課  
 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1770番地